



第 70 号

目 次

論 文

- 西魏・北周の対外政策と中国再統一へのプロセス
 —東部ユーラシア分裂時代末期の外交関係— …… 菅沼 愛語 (1)
- 近世大名家臣団の官僚制と軍制 —彦根井伊家の場合— …… 母利 美和 (23)

研究ノート

- 中世盛期・後期西ヨーロッパの「市場」をめぐる諸問題
 —1990年代以降の欧米学界を中心に— …… 山田 雅彦 (1)

史料紹介

- アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著
 『高貴なる用語の解説』訳注 (4) …… 谷口淳一 編 (31)

載 録

- 柴田純教授 略年譜・著作目録 …… (61)
- 瀧浪貞子教授 略年譜・著作目録 …… (67)

- 史窓総目録 (1-70号) 1952年～2012年 …… (79)

- 彙 報 …… (97)

2 0 1 3 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

史窓総目録 (一一七〇号)

一号 (一九五二・七)
随想
史窓の発刊に寄す
変転期と歴史学
村山修一
西田直二郎

論文
伯夷叔齊は狐である
唱和の婚俗について
歴史考古学に於ける時代決定
研究ノート
魯迅の世代
搜神記の撰集者と
その書物に関する問題
藤瀬恵美子

森安太郎
金田純一郎
羽溪四明

平岡英子

日向高鍋毛作坂断崖の
見層研究報告書
道北眞智子

史窓にどう諸君へ
橋川時雄

書評・紹介
安田徳太郎著「人間の歴史」
石井節子

二号 (一九五三・三)

第一回卒業生を送る

随想

歴史研究と歴史教育
旅行と宿泊所

研究ノート

搜神記の研究(其の二)
絵巻物より見たる中世人の生活
岡藩と切支丹
物語文学発生の背景

論文

円珍入唐の動機
網謬の詩への一考察

三号

日本文化の封建性(要旨)
日向児湯郡方言について

随想

有無形文化財の保存
レポートの作成に就いて

論文

法隆寺問題の論點
詩経に見える可笑味の歌
附「東門」に就いて
一読詩雜記之三

村山修一

小葉田淳

禿氏祐祥

藤瀬恵美子

津田民子

田島安子

當摩恵美子

蘭田香融

金田純一郎

村山修一

道北眞智子

江馬 務

村山修一

宮地廓慧

金田純一郎

研究ノート

竹取翁譚の發展
統鼻禪の研究
烏の伝説

堺の氏神の伝説と祭について

大阪の節分
京の歳末年始
浦島説話について

四号

論文

茶道の成立と大名の生活
源氏物語の社会的背景について

資料

稲穂社縁起伝説
秋田県南地方に行われる
かまくらについての一考察

彦山の伝説をたずねて
佐渡糸操り人形について
大湯ストーンサークルに関する
一考察

ペーロンについて
奈良県磯城郡に於ける神社の
御田植祭について

書評・紹介

加藤繁博士著「支那經濟史考証」
つださうさち「日本歴史の
取扱いに就いて」

當摩恵美子

山元弘子

廣澤武子

仲谷和子

有原桂子

衣川洋子

金子久美

藤原孝子

河野道子

岡田美智子

高橋美智子

山本久子

中川美和

佐々木千恵子

福田和子

西田いつ子

角野節子

道北眞智子

史

論文

鄭玖事蹟考

素行の古學思想

鶴林寺の修正會

ルオ一覺え書

私の觀た佐土原人形

藤原利一郎

羽溪四明

村山修一

中村茂夫

道北眞智子

論文

清水焼について

—清水焼の特色と—

その史的考察—

中世庶民教育の一考察

—社会教育的見地より—

唐代「茶経」の成立にいたる

茶の歴史

山口右子

道北眞智子

金子久美

論文

小沢蘆庵の和歌と時代思想

太子の仏教受容の態度について

武士団成立史の一齣

中国に於ける胥吏に就いて

—主に唐宋を中心として—

西田直二郎

羽溪四明

上横手雅敬

岡田美智子

資料

六齋念佛歌詞

土居文書

飛驒國白川村の大家族制について

村山修一

村山修一

日下聿子

八号

(一九五五・十二)

論文

唐代に於ける国忌行香に就いて

中期華山芸術に於ける自然と人間

阮朝のアヘン禁令について

中世に於ける寺入りの

年齢に就いて

那波利貞

今中寛司

藤原利一郎

道北眞智子

十号

(一九五六・十一)

論文

祇園祭祀小攷

ヨーロッパ史の時代区分によせて

「心学五倫書」の

著作者問題について

一条兼良の生涯と思想

古代文化史上に於ける奥羽

那波利貞

前川貞次郎

今中寛司

道北眞智子

高橋道子

資料

醫王山毛越寺記

菊池京子

書評

村山修一著「藤原定家」

関順也著「藩政改革と明治維新」

上横手雅敬

平田晃子

七号

(一九五五・七)

立てる方法に就いて」

山本達郎「時代區分の基準を

家永三郎「主従道德の一考察」

思想的背景」

大石良材「明治教育史の

野上俊靜著「遼金の仏教」

佛教史學會編「佛教史概説」

舞鶴市篇「舞鶴史話」

江馬務著「日本結髪全史」

高群逸枝著「招婿婚の研究」

日下聿子

森田秀子

森 和子

吉川美江

濱田順子

村山修一

平岡久美子

松田竹子

吉川美江

濱田順子

論文

盲人法師とその傳承

—「當道法師一字根元記」について—

清代の湘西苗族について

河内國磯長叡福寺の

古文書古記録について

綱繆詩私攷

鎌倉幕府政治の變質

—主に執権政治を中心として—

柴田 實
藤原利一郎

村山修一

金田純一郎

前原尚子

牧英正「律令前後の人身売買法」

戸頃重基「鎌倉仏教思想論」

助野建太郎「島原一揆の性格

特にその強靱性について」

山名玲子

松田和代

藤音幸子

山本喜美子

海老沢有道「国学に於ける

天主教學撰取」

宮崎市定「中国に於ける

聚楽形体の変遷について」

出田和子

鈴木貞子

十三号

(一九五八・八)

資料
龍神社海部氏の系圖を観る

吉野水分神社見學記

佐々木秀子

田矢きく

論文

但徠學の非政治性

史學史の課題についての一試論

平安時代の禮像について

源頼朝の評價について

—とくに「東國沙汰權」をめぐって—

今中寛司

前川貞次郎

毛利 久

十二号

(一九五七・十一)

論文

東洋史上から見た八岐大蛇説話小攷

地頭源流考

「身自鏡」について

北魏文明皇太后と仏教

—主に北魏書を中心として—

那波利貞

上横手雅敬

籠谷眞智子

渡瀬道子

研究ノート

武士團成立の一考察

—千葉氏の場合—

洋學結社「尚齒會」について

資料

大悲山峰定寺

—附 花背別所の民家

村井康彦

尾羽澤淑子

服部清子

菊池京子

紹介

伊藤鄭爾著「中世住居史」

籠谷眞智子

十四号

(一九五九・三)

論文

咲く花の咒術

—詩歌以前のもの—

虎谷金山

安南近世における

亜鉛錢の鑄造と流通

北野大茶湯とその茶会記

—とくに内閣文庫所蔵

「大茶の湯之記」について—

室町時代教育史の展望と課題

—公家の場合—

研究ノート

封禪に見られる二つの性格

—宗教性と政治性—

西田直二郎

小葉田淳

藤原利一郎

村井康彦

籠谷眞智子

申谷美智子

資料

太秦広隆寺の牛祭について

大呂の七夕祭について

論文紹介

藪田香融「倉下考」

豊田武「惣領制覚書」

藤井学「法華宗不受不施派

についての一考察」

菊池京子

佐々木秀子

堀井規久子

森 寿子

近藤かづ子

書評・紹介
歴史学研究会・日本史研究会編
「日本史学史」

西口順子

十五号

(一九五九・七)

史

論文

我が神代に於ける中華大陸との

関係概説

風俗画の考証

院政期に於ける別所浄土教の考察

—良忍上人伝をめぐって—

那波利貞

江馬 務

西口順子

講座

ヨーロッパ史と二つの世界

前川貞次郎

書評

小林行雄著「古墳の話」

高橋富雄著「奥州藤原氏四代」

上横手雅敬著「北条泰時」

清水和美

田中久子

北村 操

十六号

(一九六〇・一)

論文

天寿国曼荼羅研究史上の

一・二の問題

古代の山民について

葛川明王院とその住民の歴史

—日本山村民史の一形態—

思想史学に於ける教理史研究の

意義について

—特に親鸞の教学的系譜の

問題について—

羽溪四明

高取正男

村山修一

石田慶和

講座

ヨーロッパ史と二つの世界(2)

前川貞次郎

史料紹介

「唱導撮要」について

近江国愛智郡金剛輪寺

所蔵文書について

籠谷真智子

北村 操

書評

松野純孝「親鸞」

小杉一雄「中国文様史の研究」

西口順子

藤音幸子

山田昌子

十七・十八号

(一九六〇・十)

第一部 論文篇 その一

唐朝政府の醫療機構と

民庶の疾病に對する救濟方法

に就きての小攷

那波利貞

阮朝治下における金銀価の問題

山鹿素行の歴史観

公出挙制の変質過程

—班挙方式の転換と里倉負名—

中世学問所の実態について

—皇居の場合—

往生伝の成立

—三善為康の往生伝を中心に—

—説話より見たる中世仏教について

—とくに無住の著作をめぐって—

藤原利一郎

羽溪四明

村井康彦

籠谷真智子

西口順子

堀井規久子

中国地方における真宗教団の展開

日本古代儀礼に於ける酒の研究

御霊信仰の成立と展開

—信仰支持の階層を中心として—

琵琶法師

—その系譜と活動—

鎌倉時代の商業

—弓削島庄を中心にした—

戦国時代に於ける大名領国制の形成

—越後上杉氏を中心にして—

錢舜拳

—人と芸術

和田睦美

佐々木秀子

菊池京子

近藤かづ子

川西れい子

横山美也子

山田晶子

第三部 史料篇

祇園長刀鉾町式目(二点)

祇園山・鉾町所蔵文書目録

十九号

(一九六一・七)

論文

上代における淀川と大和川

土倉の存在形態

御師—その発生と活動

中世における辺境土豪の動向

—大隅國禰寝氏について—

戦国大名領の形成過程

—越前朝倉氏の場合—

司馬江漢の思想について

宋元時代に於ける

中国人の南海発展

伏見義夫

橋本春美

金村嘉子

馬越脇千津子

松沢知代

平岡美佐子

青谷嫩子

二十号 (一九六二・二)

論文

焚黄儀節致
—慈覚大師円仁の
—入唐に關聯して—
室生寺金堂伝釈迦像の性格

那波利貞
毛利久

水曜講座

日本の神話について

上田正昭

古代仏教論

—国家と仏教—
元祿時代について

蘭田香融
脇田修

明代監察制度序説

間野潛龍

二十一号 (一九六二・十二)

論文

專修寺本『親鸞伝繪』について
—宮地教授の批判に答えて—
—明初における暹羅との交渉

赤松俊秀

甲賀郡中惣と伊賀惣国一揆

藤原利一郎
石田善人

紀伊国粉河寺とその縁起

—寺院縁起の成立に關する
—一試論—

西口順子

講座

ヨーロッパ史序説(一)

—ヨーロッパの膨張を
—中心として—

前代の村落生活(一)

—中心として—

前川貞次郎
高取正男

水曜講座

日本古代史の諸問題
室町時代社会の研究
豊臣政権の問題点
近世初頭の文芸と繪画
六朝貴族社会と中国中世史
宋代の仏教

八木 充
熱田 公
朝尾直弘
赤井達郎
川勝義雄
竺沙雅章

研究ノート

中晩唐時代に於ける
—仏教寺院の社会的勢力
—二、三の営利事業に就いて—

吉本慎子

史料紹介

熊谷五右衛門義比勤功書(抄)

田中三千代

二十二号 (一九六四・二)

論文

盛唐時代に突如として現はれた野戦の
—布陣用兵法の一變態現象について
—再び六角夢想の年時について
—永樂時代における明と暹羅との交渉

那波利貞
宮地廓慧
藤原利一郎

水曜講座

日本中世商品流通史研究の問題点
近世農家の経済生活
中国均田制度の性格と問題点

三浦圭一
宮下美智子
西村元佑

研究ノート

鎌倉仏教における死者追善

—日蓮の教説とその布教を
—中心として—

篠原計恵

守護大名の存在形態

—近江佐々木氏の場合—

堀 千津

二十三号 (一九六五・二)

論文

延沢銀山史の研究
准如上人と芸能

小葉田淳
籠谷眞智子

—本願寺の芸能 その一—

前代の村落生活(二)

高取正男

水曜講座

明代税役制度の研究について

岩見 宏

二十四号 (一九六五・十)

論文

唐の小太宗宣宗皇帝と其の時勢
—多田院とその文書
—西山党の勃發事情についての
—一考察—

那波利貞
中村直勝
藤原利一郎

下間少進法印

—本願寺の芸能 その二—
—定額寺について—

籠谷眞智子
西口順子

窓 二十五号 (一九六七・三)

史 論文 西田先生の生涯と学問 柴田 實

良源の「二十六箇条起請」制定の意義 堀 大慈

大江匡房の「続本朝往生伝」撰述について 明石光麿

円融寺の成立過程 菊池京子

史料紹介 無動寺蔵本「鞍馬縁起」 西口順子

二十六号 (一九六八・三)

論文 「所」の成立と展開 菊池京子

研究ノート 昌寛法橋 小林淑子

二十七号 (一九六九・六)

論文 アジアの歴史世界とその構造

―とくに北アジア世界と― 東アジア世界とについて― 田村実造

排仏意識の原点 高取正男

旧唐書の成立について 藤田純子

研究ノート 『御産所日記』の一考察

―室町幕府近習の研究― 堀の会合衆三宅氏 満田栄子

近世初期の宮座と村落 中川邦恵

―河内国旧交野郡津田村周辺域の場合― 門川直子

近世初期における柳宮茶道 平田加津美

江戸幕府の職制について 丸山昌子

―奏者番と側用人― 藤城久子

書評 明代徭役制度の展開 (一九七〇・三)

論文 平安前期の冷然院と朱雀院

―「御院」から「後院」へ― 所 京子

家司受領 柴田房子

知行国制度の成立 角野陽子

平安時代初期寺院の考察 西口順子

―御願寺を中心に― 堀 大慈

平安末期の興福寺 日下佐起子

―御寺観念の成立― 増井尚子

書評 An Introduction to the Source of Ming History

Ming History 三宅裕子

二十九号 (一九七一・三)

論文 日本文化の醜態と中国文化

―「東アジア世界の形成」に― 田村実造

関連して― 北京における定期市の変遷 日比野丈夫

元朝の達魯花赤について 原山仁子

樂所の成立と展開 有吉恭子

能における亡霊の発想 西口順子

天文時代の町人茶湯 籠谷眞智子

―本願寺寺内町を中心に― 堀 大慈

本願寺歴代御消息年表 堀 大慈

―実如から広如まで― 堀 大慈

三十号 (一九七一・十)

論文 梁戸攷 那波利貞

塙主攷 那波利貞

載録 那波利貞博士略年譜・著作主要目録

三十一号 (一九七三・三)

論文	能登宝達金山について	小葉田淳
	陸贄の両税法批判について	藤田純子
	南都絵所	吉川美千代
	近江国菅浦の惣における崩壊期について	山本外代子
研究ノート	鎌倉幕府成立過程の一考察	藤川栄子
書評	深沢宏著『インド社会経済史研究』書評	安岡令子
三十二号		(一九七四・三)
論文	後漢書南蛮伝小考	狩野直禎
	天武・持統朝の中臣氏	久下真弓
	—藤原賜姓をめぐる—	加藤貞子
利稲率徴制		
研究ノート	女房	
	—王朝時代の家女房を中心として—	木下かずみ
	清末の銭荘について	大橋知左子
	—上海の銭荘に関する一考察—	藤原利一郎
三十三号		(一九七五・三)
論文	貨幣史研究二題	小葉田淳
	歳役の終焉	
	—慶雲三年二月十六日勅にみえる「安穩条例」をめぐる—	加藤貞子
	藤氏の四家	渡辺久美
	—武智麻呂と房前を中心に—	多賀ゆかり
鎌倉初期の公武関係		
研究ノート	唐代の史学	
	—前代史修撰と国史編纂の間—	藤田純子
史料紹介	「四川省郫県犀浦出土漢代残碑」	狩野直禎
三十四号		(一九七六・三)
論文	黎朝の科挙	藤原利一郎
	—聖宗の科挙制確立まで—	堀 大慈
	横川仏教の研究	米崎嘉良子
	勅旨省	鈴木三紀子
	別所の聖	
	宋代磁州窯	木咲富美子
	—特に器面装飾を中心として—	
三十五号		(一九七七・三)
論文	宋代における瓷器行用の普及	愛宕松男
桂園時代の開幕		山本四郎
三十六号		(一九七九・三)
論文	梵刹寺と等定	西口順子
	歴代遷宮論	
	—藤原京以後における—	瀧浪貞子
大殿考		西山恵子
チンギスハーンの札撒について		
—特に元朝に於けるその実効性を中心として—		音瀬 香
研究ノート	大隈内閣下の増師関係世論	山本四郎
	元の世祖と漢人知識層	八田真弓
史料紹介	江州浅井郡菅浦阿弥陀寺什物等之記録	堀 大慈
	—近世菅浦の惣寺について—	
史料紹介	フランス旅行記	狩野直禎
三十七号		(一九八〇・三)
論文	いわゆる蔡琰悲憤詩について	内田吟風
	—匈奴史の一史料として—	籠谷眞智子
『古今著聞集』作者考		

前齋宮・前齋院の生涯
—その入内と降嫁を中心に—
芝野真理子

研究ノート

『隔真記』陶磁器年表
寺内内閣初期の対華政策
岡 佳子
山本四郎

史料紹介

江州浅井郡菅浦阿弥陀寺所蔵
『日鑑』(上)
寺内内閣における民間団体の
対華問題意見
堀 大慈

史料紹介

(1916~1918における)
鈴木敏子

三十八号

(一九八〇・十二)
田村実造

論文

中国窯業における流通の諸形態
—瓦器の時代から陶磁器の
時代への転換に伴う変化を
中心として—
愛宕松男

黎朝後期鄭氏の華僑対策

趙岐考
藤原利一郎
狩野直禎

サツプオー

—その愛をめぐって—
元文・寛保期の鑄銭について
小葉田淳

1898年6月政変の一考察

—原敬の対談と観測を中心に—
御霊信仰を理解するために
山本四郎
高取正男

初期平安京の相貌
蓮如時代寺内手猿楽の人人
—真宗文化史研究の一部として—
上皇別宮の出現
村井康彦
籠谷眞智子

後院の研究 その1

奈良末・平安初期の東国仏教に
みられる師資関係
瀧浪貞子

弁官小考

部落有林野統一にみる
地方改良運動の側面
島川貴久子

史料紹介

高松藩砂糖方被仰渡ヶ条
について
羽溪四明

江州浅井郡菅浦
阿弥陀寺所蔵『日鑑』(下)

堀 大慈

論文

(遺稿)称徳朝の仏教政治
元文・寛保期の鑄銭について(続)
高取正男

秋田の鑄銭

—宋代陶磁器窯場における産業機構
客家資料『中華旧礼俗』について
—後院の研究その二—
小葉田淳
林 傳芳

初期御室窯の流通市場

—金森宗和を中心に—
金子部 伝承
瀧浪貞子
岡 佳子
中野千鶴

研究ノート

岸辺福雄論
—岸辺福雄の幼児教育観を
中心に—
丸山千里

載録

故高取正男教授年譜
故高取正男教授著作目録

四十号

(一九八三・三)

論文

サツプオー試論
—プラトーンの理解をとおして—
永井康視
瀧浪貞子

東朱雀大路と朱雀河

研究ノート

黒田清隆維新事歴談
—『原敬関係文書』より—
春日権現験記絵考
寺町明子
小鳥さえ子
女院制の本質
劉 和子

四十一号

(一九八四・三)

論文

南宋文献、蔣折撰「陶記」の訳注
光明子の立后とその破綻
愛宕松男
瀧浪貞子

研究ノート
宗和の書状をめぐる

史料紹介
九条武子短歌拾遺集第二部

四十五号
(一九八八・三)

史料紹介

原敬内地政況報告

—伊藤博文宛書翰をめぐる—

岡 佳子

載録

藤原利一郎名誉教授

略年譜・著作目録

山本四郎元教授 略年譜・著作目録

論文

劉陶についての一考察

明治前半期米作単作地帯

—新潟県頸城平野部における
地主制(1)—

「天皇の往生」おぼえがき

—堀川天皇の死をめぐる—

研究ノート

和歌山県近代史の一コマ

—鉄道敷設と政争—

史料紹介

「明治元年戊辰正月・京師
討幕戦闘略記」

批評・紹介

中山清著『千町歩地主の研究』
(正・続)

山田信夫教授追悼録

大谷探険隊とその現代的意義
(講演遺稿)

山田教授追悼文集

狩野直禎

狩野直禎

中山清

西口順子

竹村房子

籠谷眞智子

四十二号

(一九八五・三)

論文

九世紀ウイグル亡命移住者

集団の崩壊

幕末・明治初年・米作単作地帯

における農民諸階層の存在状況

史料紹介

九条武子短歌拾遺集

四十三号

(一九八六・三)

論文

清浦流産内閣の研究

「東番記」より観たる夷州と流求

研究ノート

政友知事と県政

—森正隆秋田県知事の事例から—

定案の生涯・使用層・流通に
ついての一考察

研究ノート

政友知事と県政

—森正隆秋田県知事の事例から—

定案の生涯・使用層・流通に
ついての一考察

籠谷眞智子

向井直子

向井直子

山田信夫

中山清

籠谷眞智子

籠谷眞智子

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

林田芳雄

山本四郎

藤原利一郎

略年譜・著作目録

山本四郎元教授 略年譜・著作目録

略年譜・著作目録

山本四郎元教授 略年譜・著作目録

四十四号

(一九八六・三)

論文

ベトナム李・陳朝官制攷

—宰相制度について—

乱軍名義考

議所と陣座

—仗議の成立過程—

大名と道具

—京極家『萬御数奇道具御印帳』
を中心に—

研究ノート

月曜会事件に関する一考察

馮桂芬の内政改革論と変法論

との関係についての一考察

史料紹介

『年中行事下書』(中京区福長町)

批評・紹介

田中麻紗巳著『兩漢思想の研究』

狩野直禎

狩野直禎

狩野直禎

狩野直禎

狩野直禎

籠谷眞智子

藤原利一郎

愛宕松男

瀧浪貞子

岡 佳子

寺町明子

大崎美鈴

龍野征代

狩野直禎

山田信夫

史 論文

五代における枢密使について
大隈内閣の初政

佐伯 富

—参戦まで—

山本四郎

福州黄檗山志諸本の比較検討
質地騒動と地主的土地所有

林田芳雄

—新潟県頸城平野部の
地主制(2)—

中山 清

研究ノート

内・外階制からみた律令官人制

上田早苗

史料紹介

イスタンブールの

ヌール・オスマニエ所蔵

No.3721ペルシア語古写本

杉山正明

批評・紹介

愛宕松男著東洋史学論集・第一卷

中国陶瓷産業史

木田知生

戴録

碩学に聞く—小葉田先生

台大時代の思い出

編集部

四十七号

(一九九〇・三)

論文

『大美聯邦志略』の翻刻

杉井六郎

本願寺の内衆下間氏と手能

—真言文化史的観点から—

籠谷眞智子

明末清初閩僧東渡攷

林田芳雄

草堂寺閩端太子令旨碑の訳注

杉山正明

研究ノート

古代日本における高麗の残像

—渤海・背奈王氏を通して—

菅澤庸子

唐玄宗「御製御書」碑文の刻字

竹中愛語

批評・紹介

山田信夫著『北アジア遊牧民族史

研究』

乾ゆかり

四十八号

(一九九一・三)

史学科四十周年を迎えて

狩野直禎

論文

近世、日向椎葉山の銅山について

小葉田淳

遼道宗宣懿皇后キタイ文哀

冊撰者考

愛宕松男

ヴェトナム歴朝の対華僑政策

藤原利一郎

原敬と知事

山本四郎

合信『博物新編』の翻刻について

「明白なる天命」と

杉井六郎

ジョージ・バンククロフト

江川良一

光武帝の政治指針

狩野直禎

明代の琉球冊封と天妃信仰

林田芳雄

米作単作地帯における

展開期大地主経営の構造

中山 清

皇位と皇統

東西文献によるコデン王家の系譜

瀧浪貞子

「恵信尼書状」私論

杉山正明

再現梅花の宴

西口順子

「別れの御櫛」考

森 弘子

「隔簾記」にみる唐物屋たち

芝野真理子

—近世初頭の陶磁器流通—

岡 佳子

武道事、俠客物と近世の大坂

—上方劇壇における流行の背景—

森西真弓

宋代の喫茶と茶葉

中臣氏の原像

田中美佐

江若鉄道の敷設と福井県側の対応

—佐野真次郎の手記をもとに—

舟杉真理子

袁世凱と勞乃宣

『義和拳教門源流考』

竹村房子

四十九号

(一九九二・三)

論文

後漢成立期の隴西

狩野直禎

坊官下間少進法印仲之の

能道と起請文

籠谷眞智子

—真宗文化史的視点から—

和州菩提山正暦寺中尾谷と

浄土信仰

大原眞弓

—牙舍利信仰をめぐる—

幕府親仏派の再検討

—『小栗日記』を中心として—

唐澤はるみ

研究ノート

近年シュリーヴィジャヤ研究に

- おける考古学的成果について
 近代羌族の出稼ぎの諸形態
 —背背子・修堰・打井を
 中心として—
 岩本小百合
 (一九九三・三)
- 五十号
 論文
 北畠氏発給文書の基礎的研究(上)
 近世後期における地主的
 土地所有の展開
 —新潟県頸城地方の
 地主制(3)—
 齋宮祥子とその周辺・覚書
 優婆塞貢進の実像とその史的意義
 稲本紀昭
 (一九九三・三)
- 史料紹介
 『瀛環志略』の翻案
 『天正十八年・同廿年
 南北勢神領取立日記』について
 杉井六郎
 稲本紀昭
- 書評
 狩野直禎著『後漢政治史の研究』
 富谷 至
- 五十二号
 論文
 高樹文庫蔵断裂地球儀図について
 幕末期頸城平野における
 大地主経営の構造と展開
 —新潟県頸城地方の
 地主制(4)—
 船越昭生
 (一九九五・三)
- 論文
 高樹文庫蔵断裂地球儀図について
 幕末期頸城平野における
 大地主経営の構造と展開
 —新潟県頸城地方の
 地主制(4)—
 船越昭生
 (一九九五・三)
- 研究ノート
 『新しきアメリカ人』と
 その高等教育改善の試み
 —ラウンドヒル・スクールを
 中心に—
 中山 清
- 書評
 所京子氏著『齋王和歌文学の
 史的研究』
 芝野真理子
 (一九九四・三)
- 五十一号
 論文
 アテナイ人の国家とオリブ
 北畠氏発給文書の基礎的研究(中)
 中国専制国家と儒教イデオロギ
 —「士」身分の変遷を通して—
 藤縄謙三
 稲本紀昭
 檀上 寛
- 研究ノート
 奈良朝に於ける皇親の存在形態
 『古語拾遺』から見た中臣氏の
 虚・実
 吉住恭子
 舟杉真理子
- 五十三号
 書評
 林田芳雄著『華南社会文化史の研究』
 谷井俊仁
 (一九九六・三)
- 論文
 元代江南投下領の分賜について
 北畠氏発給文書の基礎的研究(下)
 こだまする地図
 —ライデン大学図書館蔵
 シーボルト・コレクションの
 一図から—
 淳仁朝の造宮計画
 —宮の新営と天皇権獲得の
 原理—
 鄭氏台湾政権の成立過程
 植松 正
 稲本紀昭
- 史料紹介
 『天文・寛永間謡初之記』
 『天文・寛永間謡初之記』
 籠谷眞智子
- 書評
 藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』
 小林 功
 (一九九七・三)
- 五十四号
 論文
 蓮如の研究
 —真宗再興の立志と猶子問題—
 何喬遠と『閩書』
 中村敬宇における
 パーンニフィケーション
 —『西国立志編』の場合—
 籠谷眞智子
 林田芳雄
 杉井六郎
- 1920年代の

窓 クー・クラックス・クラン

常松 洋

明治十二・十三年にみる

日本外交の方策

―琉球所屬問題における「変質」について―

松本郁美

研究ノート
東海散士柴四朗の政治思想
―政治小説「佳人之奇遇」
― 発刊以前―

高井多佳子

史料紹介

荒木田守武『神税日記』

稲本紀昭

籠谷眞智子著『真宗文化史の研究

―本願寺の芸能論考―

金龍 静

檀上寛著『明朝専制支配の

史的構造』

鄭 台燮

史料紹介
石水博物館蔵
『古人大手鑑』所収中世文書

稲本紀昭

史料紹介
陸奥宗光の妻亮子宛書簡について

岩橋里江

戴録

籠谷眞智子教授 略年譜・著作目録

林田芳雄教授 略年譜・著作目録

杉井六郎教授 略年譜・著作目録

京都女子大学図書館所蔵
『下鴨社家日記』(田中家日記)
について

佐藤文字

戴録
船越昭夫教授 略年譜・著作目録

五十七号 (二〇〇〇・三)

五十五号

(一九九七・三)

論文

地主的土地所有の構造と地主経営

―新潟県頸城地方の地主制(五)―

中山 清

日本人移民と(国語)教育

坂口満宏

戴録
狩野直禎教授 略年譜・著作目録

五十六号

(一九九九・三)
論文
江蘇尹灣漢墓出土簡についての考察
―とくに「集簿」を中心として―
明初の対日外交と林賢事件
米作単作地帯における
大地主経営の基礎構造
―貸付地経営を中心に―
京都近郊における延宝検地の一事例
―「田中伊連日記」にみる
下鴨村延宝検地記事を中心に―

中山 清

チャーティストたちの素顔

―収監された草の根

チャーティストの実像―

古賀秀男

論文
ヘレニズムとヘブライズム
―牧畜文化の比較考察―
元末浙西の地方官と富民
―江浙行省検校官王良の
議案をめぐる―

藤縄謙三

『下鴨社家日記』にみる
賀茂伝奏と下鴨社惣代
―延宝期を中心に―
近世下鴨社における年中行事
近世都市生活における疱瘡神まつり
―「田中兼頼日記」を

岸 妙子

研究ノート

幕末期砂糖生産地域における

農業構造

―大内郡引田村を事例として―

四衛府日次御贄について

植松 正
中野昌代

素材として―

佐藤文字

宇佐美尚穂

史料紹介

西園寺公望書簡―鳩居堂

熊谷信吉宛―

竹村房子

どうとらえるか

―イギリス王室と民衆・世論―

アメリカのヴェイクトリアニズムと

中産階級

ロシアの人口移動

(十八―二十世紀)とその特色

皇親と賜姓皇親

唐代の積奠について

『新撰姓氏録』における姓意識と

渡来系氏族

播磨国越部下荘相論に関する一考察

―元亨三年後醍醐天皇安堵

について―

天王寺妙嚴院御比丘尼御所

―中世大坂の寺院史についての

試み―

菩提山本願信円の夢

文化・文政期高松藩における

砂糖積出状況

―大内郡引田村を事例として―

幕末期萩藩における給領取立農兵

―寄組浦家を事例として―

初代上海領事品川忠道に関する

一考察

『佳人之奇遇』を読む

―小説と現実の「時差」―

前漢文帝期の政治における一考察

北魏末期の爾朱榮

唐玄宗「御製御書」闕特勤碑文考

―唐・突厥・吐蕃をめぐる

外交関係の推移―

広西省貴県における団練の形成

と郷紳

菅沼愛語

吉野 香

史料紹介

後桜町女帝年譜稿

尚順書翰

―鳩居堂熊谷信吉宛―

所 京子

竹村房子

五十九号

(二〇〇二・二)

論文

「ローマの平和」とキリスト教

―2世紀における帝国と教会―

キャロライン王妃と貴族院の

「裁判」

アメリカ禁酒法の施行状況

―ウィカシヤム報告書にみる

同時代の評価―

新田 一郎

古賀秀男

常松 洋

史料紹介

釈山松禪院文書

稲本紀昭

追悼録

藤縄謙三教授 略年譜・著作目録

藤縄謙三教授追悼文集

載録

永田英正教授 略年譜・著作目録

史料紹介

西園寺公望書簡―鳩居堂

熊谷信吉宛―

竹村房子

五十八号

(二〇〇一・二)

史学科の半世紀

―五十周年を迎えて―

常松 洋

論文

石川文山研究余話

後漢書列伝六十一朱儁伝訳稿

ヘーラクレイトスにおける一者

阿衡の紛議

―上皇と摂政・関白―

行旅難渋者救済システムについて

―法的整備を中心にして―

幕末・明治初年における

地主の存在状況

日本人会ネットワーク

―北米日本人会の組織と

活動を中心に―

礼忠簡と徐宗簡研究の展開

―居延新簡の発見を契機として―

元代浙西地方の税糧管轄と

海運との関係について

元末の海運と劉仁本

―元朝滅亡前夜の江浙沿海事情―

一二世紀初頭ハラブの

住民指導者たち

キャロライン王妃事件を

どうとらえるか

―イギリス王室と民衆・世論―

アメリカのヴェイクトリアニズムと

中産階級

ロシアの人口移動

(十八―二十世紀)とその特色

皇親と賜姓皇親

唐代の積奠について

『新撰姓氏録』における姓意識と

渡来系氏族

播磨国越部下荘相論に関する一考察

―元亨三年後醍醐天皇安堵

について―

天王寺妙嚴院御比丘尼御所

―中世大坂の寺院史についての

試み―

菩提山本願信円の夢

文化・文政期高松藩における

砂糖積出状況

―大内郡引田村を事例として―

幕末期萩藩における給領取立農兵

―寄組浦家を事例として―

初代上海領事品川忠道に関する

一考察

『佳人之奇遇』を読む

―小説と現実の「時差」―

前漢文帝期の政治における一考察

北魏末期の爾朱榮

唐玄宗「御製御書」闕特勤碑文考

―唐・突厥・吐蕃をめぐる

外交関係の推移―

広西省貴県における団練の形成

と郷紳

菅沼愛語

吉野 香

史料紹介

後桜町女帝年譜稿

尚順書翰

―鳩居堂熊谷信吉宛―

所 京子

竹村房子

五十九号

(二〇〇二・二)

論文

「ローマの平和」とキリスト教

―2世紀における帝国と教会―

キャロライン王妃と貴族院の

「裁判」

アメリカ禁酒法の施行状況

―ウィカシヤム報告書にみる

同時代の評価―

新田 一郎

古賀秀男

常松 洋

史料紹介

釈山松禪院文書

稲本紀昭

追悼録

藤縄謙三教授 略年譜・著作目録

藤縄謙三教授追悼文集

載録

永田英正教授 略年譜・著作目録

史

— 西周後期、宣王朝の実像を求めて —
— 両大戦間におけるロシア極東地方の人口動態 —
— 囚人移動を中心に —

松井嘉徳

論文

近世奈良町の号所

水谷友紀

論文

— 『佳人之奇遇』における「自由」 —

高井多佳子

— フランス革命期における政治と美術 —

中村泰三

— 対マクセンティウス戦を中心 —

新田一郎

北シリアにおけるスンナ派優遇策の開始

谷口淳一

— ジャック・ルイ・ダヴィッドの活動を中心 —

貴傳名暁子

土地計画入植一五〇周年とその後のチャーターイズム研究

古賀秀男

— 十二世紀前半のハラブ —

谷口淳一

ヒラール・サービー著／谷口淳一・清水和裕監訳『カリフ宮廷のしき

書評

たり』

伊藤隆郎

史料紹介

下鴨社家日記紙背文書目録

下鴨社家日記研究会

研究ノート

— アメリカに渡った日本人移民に

関する歴史研究の現在

— 『日本人アメリカ移民史』補論 —

坂口満宏

六十二号

(二〇〇五・二)

載録

— 新田一郎教授 略年譜・著作目録 —

— 古賀秀男教授 略年譜・著作目録 —

— 中村泰三教授 略年譜・著作目録 —

— 追悼 奥村容子さん —

六十四号

(二〇〇七・二)

書評

— 坂口満宏著『日本人アメリカ移民史』

— 移民史 —

松田京子

吉本道雅

論文

— 井伊直弼の著述活動と片桐宗猿 —

— 石州流相伝の師系をめぐって —

— キャロライン妃の大陸旅行とミラノ委員会 —

— フランス革命におけるヴァンデ戦争の史的位

置

— 田中久美子

古賀秀男

母利美和

古賀秀男

論文

— 時の法令

— 前漢月令攷 —

— 北育における盧舍那仏信仰の台頭

— モンゴル国国書の周辺

— 研究ノート

— 近代におけるカフェーの変遷

— 明代海禁体制の再編と

— 漳州月港の開港

— 母利美和著『幕末維新の個性6

馬場理恵子

村松賢子

植松 正

村田瑞穂

木岡さやか

井伊直弼」 箱石 大

―末羅力士の移石説話― 小谷仲男

田丸城古記・丹波国船井郡西田村
小早川家文書

母利美和
有働春香
三村明依子

載録
植松正教授 略年譜・著作目録

研究ノート
書跡資料調査における用語の検討

綾村 宏

六十五号 (二〇〇八・二)

史料紹介

神宮文庫所蔵

中村不能斎著「磯打浪摘要」
下鴨社司南大路家文書

母利美和
渡邊友花

六十八号 (二〇一・二)

史学科六十周年を迎えて
―新世紀十年の歩みと課題

母利美和

論文
北畠国永「年代和歌抄」を読む
元首政期ローマ帝国と

稲本紀昭

ギリシア知識人

桑山由文

中世中期サン・トメールの市場を
めぐる自由と統制

六十七号 (二〇一〇・二)

論文

―13世紀ワイン・ステープル
市場再論―

鈴木麻倫子

根源の時

小谷仲男

史料紹介

山城国久世郡寺田村文書目録

母利美和

―多様な外交関係の形成と
その展開―

菅沼愛語

六十六号 (二〇〇九・二)

明代督撫幕府の構造と特色
―嘉靖年間の胡宗憲幕府を
手掛りとして

菅沼愛語

史料紹介

アフマド・イブン・ファドル・
アッラー・ウマリー著

菅沼愛語

―高貴なる用語の解説』訳注(一)
山城国伏原家文書・伏見同心田村家
文書・草津宿助郷大路井村文書・

辻原明穂

論文

七世紀後半の「唐・吐蕃戦争」と
東部ユーラシア諸国の自立への動き
―新羅の朝鮮半島統一・突厥の
復興・契丹の反乱・渤海の建国
との関連性―

菅沼愛語

窓 ハドリアヌス帝のアテナイ「復興」と

ヘロデス・アッテイクス父子

桑山由文

史 国民娯楽の創生

—草創期アメリカ映画史 1—

常松 洋

ガンダーラ仏教とキジル千仏洞壁画

小谷仲男

中世後期アミアンにおける契約登記

簿の誕生

—都市自治体による非訟裁判権

(Juridiction Gracieuse)の行使を

軸として—

山田雅彦

史料紹介

壬生家文書の三徳山三佛寺

関係文書について

綾村 宏

京都女子大学博物館学芸員課程所蔵

『京都加茂川沿革史』

(加茂川橋梁沿革記)について

高井多佳子

京都醍醐町八木家文書

伏見大坂町文書

母利美和

藤田 彩

金森智子

アフマド・イブン・ファドル

アッラー・ウマリー著

『高貴なる用語の解説』訳注(2)

統計資料・一九三〇年代の広島県に

在留した日系二世

坂口満宏

谷口淳一編

(興亡の世界史第三巻)

海野ますみ

戴録

小谷仲男教授 略年譜・著作目録

第六十九章

(二〇二・二)

論文

ガンダーラ仏教と

キジル千仏洞壁画(続)

小谷仲男

—末羅力士移石説話の探求—

安史の乱における周辺諸国の動向

—ウイグル・吐蕃・于闐・拔汗那・

吐火羅・大食・南蛮・契丹・奚・

南詔・党項・渤海・新羅・日本—

彦根藩足輕組の軍事編成と組織運営

史料紹介

アフマド・イブン・ファドル

アッラー・ウマリー著

『高貴なる用語の解説』訳注(3)

谷口淳一編

随想

陸軍将校から歴史研究者へ

—私の戦中・戦後史—

山本四郎

第七十章

(二〇三・二)

論文

西魏・北周の対外政策と中国再統一

へのプロセス

—東部ユーラシア分裂時代末期の

外交関係—

菅沼愛語

近世大名家臣団の官僚制と軍制

—彦根井伊家の場合—

母利美和

研究ノート

中世盛期・後期西ヨーロッパの

「市場」をめぐる諸問題

—1990年代以降の

欧米学界を中心に—

山田雅彦

史料紹介

アフマド・イブン・ファドル

アッラー・ウマリー著

『高貴なる用語の解説』訳注(4)

谷口淳一編

戴録

柴田純教授 略年譜・著作目録

瀧浪貞子教授 略年譜・著作目録

書評

栗田伸子、佐藤育子著

『通商国家カルタゴ』

二〇二二年度 学会行事

春季学会旅行

三月二十七日(火)～二十八日(水)

明治村、飛騨高山、白川郷

春季の学会旅行は愛知県にある明治時代の町並みを復元した明治村、徳川美術館、飛騨の白川郷を訪れました。復元された明治時代の移築建築物が立ち並ぶ明治村では、散策しながらまるでタイムスリップをしたかのような感覚に陥りました。また白川郷では晴天の中、雪化粧をした合掌造りの民家が立ち並ぶ地区へ行き、実際に建物の中へ入る貴重な体験をしました。施設内は当時の暮らしぶりを思わせる囲炉裏や建築など、雪国ならではの工夫が施されていました。春の旅であったにもかかわらず、訪れた地域には雪が積もっていたので冬のような風景に遭遇し、普段見慣れない雪国を堪能することができました。

新入生歓迎会

四月二日(月) 新入生オリエンテーション

今年には本学史学科に一四七名の新入生が入学しました。大学という新たな環境に不安あり、期待ありと、複雑な心境を窺わせる面持ちの学生が、例年通り多かったように思います。そんな新入生の緊張を解きほぐすかのように、個性溢れる史学科の先生方の歓迎トークで、会場がいつきに盛り上がりました。自己紹介の後には短い時間ではありましたが、史学会委員が新入生から質問を受け、これから学ぶ学問について積極的に取り組もうとする姿勢が感じられました。

新入生歓迎バスツアー

四月四日(水) 石山寺

新入生の交流を深めるために史学科では毎年恒例のバスツアーを企画しています。このバスツアーで仲良くなった人が四年間の大学生活の中でかけがえない存在になったという話もよく耳にします。「源氏物語」の作者である紫式部ゆかりの寺、滋賀県にある石山寺を訪れた今年の旅行でもそうでした。石山寺へ向かうバスの中では、最初は緊張した面持ちでしたが、自己紹介タイムになると空気は一変、様々な地域から来ている学生たちがお国自慢や趣味・特技を披露し、今後学びたい分野についても多くの学生が積極的にアピールしていました。共通点を持っている学生同士が仲良くなるにつれ、車内の雰囲気は大いに盛り上がり、歓声や笑い声が聞かれるようになりました。

春季公開講座

五月十八日(金) J二二四教室にて

「天下」の成立—中国古代、天の考古学—

本学教授 松井 嘉徳

十六世紀末転換する日本人の地理認識

京都大学名誉教授 藤井 譲治

夏季学会旅行

八月七日(火)～八日(水)

倉敷、尾道、宮島、呉

夏季の学会旅行は岡山の倉敷美観地区、広島尾道の浄土寺、宮島の厳島神社、呉の大和ミュージアムを訪れました。今回の旅行観光地を決定するためのアンケートでは、西日本に興味を持つ学生が多く、旅行参加者も比較的多かったように思います。

初日の倉敷美観地区では自由時間も多く、街の散策を楽しみました。また坂の町として知られる尾道では、浄土寺へ向かう道中も急な坂道や階段があり、上るのに一苦労している学生もいて、街の風土を直に体感していました。二日目は、フェリーに乗って宮島の厳島神社へ向かいました。大鳥居が徐々に近づいてくると、参加者全員が大いに喝采しました。呉の大和ミュージアムに入館すると、戦艦大和の、

二六・五メートルの一〇分の一模型が待ち構えていて、その迫力に圧倒されました。展示は造船業で栄えた呉の町と戦争の関連性が表わされていて、多くの学生は展示品を、時間をかけてゆっくり観覧していました。

卒業論文中間発表

日本史 十月十六日(火)～十月十八日(木)

東洋史 十月二日(火)、十月三日(水)

西洋史 十月十日(水)～十月十二日(金)

秋季公開講座

十一月十六日(金) J三二〇教室にて

もう一つの万葉集—女帝三代の挑戦—

本学教授 瀧浪 貞子

近世ロンドンの社交空間

—コーヒーハウス、消費文化、公共圏—

早稲田大学教授 中野 忠

卒業生予餞会

十二月二十日(木)

卒業論文の提出締切日、恒例の予餞会が行われました。本年度は旅館平新にお世話になり、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々を称え合い、とても賑やかなひと時となりました。

卒業論文は、京都女子大学で過ごした四年間の総決算です。先生と相談を重ね、図書館に通って論文や史料と向き合い、時間を問わず学生研究室で作業する等、卒業論文の執筆に真剣に取り組んできました。締切の直前まで努力を惜しまずに粘る姿もありました。予餞会での達成感に満ちた笑顔は、充実した学生生活を表すとともに卒業論文完成の実感をわかせるものでもありました。

先輩たちも、学生生活が実りあるものとなるように努力を重ね、皆が晴々とした笑顔でこの日が迎えられることを祈ります。

一年生専攻分け説明会

十二月二十一日(金)

十二月二十一日の昼休み、二年生以降の専門的な研究分野を決定するため、一年生を対象に、専攻分け説明会が開かれました。先生方から、各専攻の独特な雰囲気と研究内容の説明がありました。当初は、今後の学生生活がある程度決まることもあり、みな気が張った面持ちでしたが、先生方のユーモア溢れるお話しによって緊張がほぐれ、笑いあいの和やかな空気が流れ始めました。卒業までの三年間、自身の専門研究を深められるよう、一年生には十分に吟味し、考慮した上で専攻を決定してもらいたいと思います。(村重美帆・峯野悠子)

二〇一二年度 史学科講義題目

講義

- 日本史概論A 瀧浪教授
 - 日本史概論B 坂口教授
 - 東洋史概論A 松井教授
 - 東洋史概論B 檀上教授
 - 西洋史概論A 桑山准教授
 - 西洋史概論B 常松教授
 - 考古学 梶川講師
 - 民俗学 根井講師
 - 日本美術史 山本講師
 - 東洋美術史 竹浪講師
 - 西洋美術史 愛宕准教授
 - 歴史地理学 中村講師
 - 人文地理学 木村講師
 - 自然地理学 赤石講師
 - 地誌学 古関講師
- 講読**
- 史学外書講読Ⅰ 谷口教授
 - 史学外書講読Ⅱ 谷口教授
 - 史学外書講読Ⅲ 坂口教授

- 漢文 馬場・森永・菅沼講師
- ラテン語 桑山准教授、佐野・疋田講師

演習

- 史学基礎演習A 常松・柴田・松井・綾村・坂口教授
- 史学基礎演習B 瀧浪・檀上・谷口・母利・山田教授、桑山・早島准教授

日本史専攻

特殊講義

- 基礎から学ぶ直す東アジアの近現代史
—日本の植民地問題を軸にして— 坂口教授
- 京都の近代 —その産業化と都市化をめぐる諸問題— 坂口教授
- 日本近世の身分と社会
『書跡資料』概論 綾村教授
- 室町幕府とその時代 早島准教授
- 藤原氏と王権 —飛鳥・奈良時代から平安時代へ— 瀧浪教授
- 藤原氏と王権 —平安時代— 瀧浪教授
- 近世武士の日常生活 柴田教授
- 近世武士の精神生活 柴田教授
- 日本文化の歴史 山路講師

講読

- 日本史講読Ⅰ 柴田・母利・坂口教授、佐竹・高井講師
- 日本史講読Ⅱ 早島准教授、木本・吉住講師
- 日本古文書Ⅰ 綾村・母利教授
- 日本古文書Ⅱ 柴田・母利教授、早島准教授

演習

- 日本史入門演習 瀧浪・綾村・柴田・母利・坂口教授、早島准教授
- 日本史演習Ⅰ 瀧浪・綾村・柴田・母利・坂口教授、早島准教授
- 日本史演習Ⅱ 瀧浪・綾村・柴田・母利・坂口教授、早島准教授

東洋史専攻

特殊講義

- クシヤン王朝の勃興とガンダーラ美術の形成 小谷講師
- ガンダーラ美術とキジル千仏洞壁画 小谷講師
- 仏教説話の展開— 田中講師
- 朝鮮古代史を考える—統一新羅 田中講師
- 古代東北アジア史を考える 田中講師
- 『魏志』東夷伝の世界— 田中講師
- イスラーム時代西アジア史 谷口教授
- 南アジアのイスラーム史 二宮講師
- 明清代の天朝体制と儒教イデオロギ— 檀上教授
- 明清代の天朝体制と東アジア 檀上教授
- 中国出土文字史料の検討 松井教授
- 周代史の研究—文献史料と金文史料— 松井教授
- 中国古代史通論 富谷講師

講読

- 東洋史講読Ⅰ 檀上教授、角谷講師
- 東洋史講読Ⅱ 小谷・岡本講師
- 東洋史講読Ⅲ 松井教授、木田講師

演習

- 東洋史入門演習 檀上・松井・谷口教授
- 東洋史演習Ⅰ 檀上・松井・谷口教授
- 東洋史演習Ⅱ 檀上・松井・谷口教授

西洋史専攻

特殊講義

- アメリカの禁酒運動 常松教授
- 植民地時代から南北戦争まで— 常松教授
- アメリカの禁酒運動と禁酒法 常松教授
- ローマ元首政期におけるアテネの変容 桑山准教授
- アテナイを生きるひとびと 栗原講師
- 法廷弁論にみるポリス生活— 山田教授
- ヨーロッパ中世都市の生活と心性 山田教授

中世ヨーロッパ市場史の研究 山田教授
近代フランス国民国家の形成 園屋講師
近代ドイツ・ナショナリズムの発展 園屋講師
近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会 小山講師
(1) 「貴族の共和国」の成立 小山講師
近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会 (2) 「貴族の共和国」の変容と解体 小山講師

グルジア人と戦争 伊藤講師
ロシアとオスマン帝国の第一次世界大戦 伊藤講師

講読 常松・山田教授
西洋史講読Ⅰ 山田教授、青木講師
西洋史講読Ⅱ 桑山准教授、福嶋講師
西洋史講読Ⅲ 桑山准教授、福嶋講師

演習 常松・山田教授、桑山准教授
西洋史入門演習 常松・山田教授、桑山准教授
西洋史演習Ⅰ 常松・山田教授、桑山准教授
西洋史演習Ⅱ 常松・山田教授、桑山准教授

「注」Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊講義については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇二二年度 卒業論文題目

日本史専攻

秋山 未恵 大嘗祭と即位―その起源と儀礼
安達かおり 疫病・災害対策の中世的展開
井上 由貴 菅原道真と藤原時平―左遷事件の真相
梅元 裕子 混血児道富文吉
瓜生 笙子 綜芸種智院の実態と空海の構想
大浦 佑圭 桓武天皇の皇位継承と皇統意識
大路 真央 鴨社における神仏習合と分離
大塚 祥子 豊臣政権期の「取次」
大場 星乃 キリシタン禁制の展開と禁制の対応

大部 優紀 熊野比丘尼の実態から見る発生要因
岡田季実子 白拍子の服装からみる中世の性と聖
小川 涼子 光明皇后と聖徳太子信仰
藤山 育子 清水寺の観光―江戸時代中期以降を中
心に

影山 実香 藤原忠平・師輔父子―摂関家の始祖
川口 典子 島原天草一揆に対する認識について
川瀬 如世 「藤原四子体制」の実態
岸本 季奈 近世における岸和田藩の役割
北野 優子 近江商人心得―小野一族の「覚」から
北山 優衣 近世における花見と桜観について
木村 里穂 近藤勇の政治的意志の形成と展開
日下 美樹 近世大坂六ヶ所聖についての考察―大
坂六ヶ所聖を中心に

久保 綾葉 平清盛―その目指したも
柴原 香 鉱物資源における近代日本の施策につ
いて
佐々 泰葉 江戸時代における医食同源思想―本草
学・養生論を中心に
佐藤 春奈 近世社会と子ども絵本
山王 智恵 二〇世紀初期の植民地考古学―大谷探
検隊・帝国大学・朝鮮総督府を通し
て

塩田 佳保 第一二回オリンピック東京大会につい
て―一九三〇年代の外交史から読み
解く日本の近代スポーツ史
柴田 佑希 中近世移行期における「公儀」
菅原ありす 法隆寺創建における一考察
鈴木 佑理 遠江国一宮小國神社祭神再考―舞楽を
糸口として祭神の成り立ちから鎮守
神まで

曾根 彩乃 平田篤胤の幽冥論について―「気吹舎
日記」を中心に
園田 恵莉 新しい文化の登場と普及―近代日本の
西洋パン食文化に見る
高木 友理 古代天皇と行幸
高田あさこ 高階氏についての一考察
高橋 由衣 平安時代における賜姓源氏存在

竹田 千晶 天野長床衆考
辰巳 綸紗 満州国建国―愛新覚羅溥儀の熱き想い―
田中 絵理 吉田総理の政治―幕長有和策を中心に
土田 葉名 蘇我本宗家
時久 知里 池田光政の明君像の形成過程について
徳重 千晶 中世における勘合貿易と堺商人の關係
富宇加彩華 薩摩藩の真宗門徒―禁制下の信仰につ
いて

仲田 侑加 元正天皇即位の背景
中村 朱音 花街の在るところ
中村 和美 近世大坂の絵師 森徹山の円山派後見
中村可南絵 ユダヤ人の受け入れ方―日本国民の目
に映ったユダヤ難民の姿
中村さくら 義経考―守護行動と在京任務を中心に
中村 真実 田沼意次の失脚とその要因
長橋 舞衣 陽成天皇について
西村 知美 浅井・織田の結婚と同盟
西村 未来 ポツダム宣言と原爆投下―日本・アメ
リカ・ソ連、それぞれの思惑
二谷 美穂 「関日記」からみる子育て
新田 萌 木戸孝允が目指した国民教育
野田 麗子 無縁墓地の諸相―行倒死をめぐる
坂東 愛子 女性の白粉化粧―鉛中毒への関心と有
害性着色料取締規則
樋口かずみ 承和の変について
樋口 尚美 山県有朋の歴史の再評価をめぐる一考
察―日本軍国主義の中で生きた政治
家

樋口 諒子 平安京の研究
平田 都子 限定された化粧―爪紅における一考察
藤田早苗枝 後醍醐天皇の後の家の考察
藤谷 美緒 自由主義者の特攻隊員―上原良司の遺
した言葉
藤本 綾 内国博覧会の変容から見る近代化へと
向かう日本―万国博覧会への志向

藤原佳奈子 重源と大仏様建築

藤原 由希 文化十年のオランダ再来航をめぐる長崎とオランダ通詞

保坂 麻実 古代の医療―皇后宮職施薬院の設置要因と果たした意義

星加有里奈 越前藩の政治的台頭における春嶽の意義

松本 恵美 救世観音信仰についての一考察

溝口果緒梨 京都とLRT―廃線された路面電車から学ぶ京都に似合う新しい公共交通システム

峯野 悠子 女帝史における持統天皇

宮下 明子 種子内親王をめぐる諸問題―姫子入内を中心に

宮本 芽実 源義経の政治的位置

本橋 綾香 明智光秀の丹波攻略

初井あかり 江戸時代の化粧風景について

山田あかね 幕末期の「奥」における女官の役割

山田 寛子 風刺画が描いた自由民権運動

東洋史専攻

旭 智絵 男装する女性たち

―中国中世史の場合―

阿部みづき タイ社会における華僑同化論について

綾部ハルナ 宋代兩浙地域の書院ネットワーク―越州新昌石氏を中心として―

上杉 佑子 明末清初における主僕の分の乱れの所産と歴史的意義

上條 景子 魏晉南朝期の都督

河西 美沙 日清修好条規と清朝の対日政策

神田 悠伊 蒋介石と三民主義

北川 真未 奴隸から支配者へ―マムルーク朝のスルタンたち―

木村 志保 契丹における祭天儀礼―その変化と漢化の関連について―

児玉 依子 『竹取物語』の中の中国文化

小林あさみ 江青再評価―迫害狂と呼ばれた女―

小林 望 三国魏における「文学」

堺 真璃 粵海関における公行設立の意義

坂田 倫子 副王イスマール近代化政策―エジプト混合裁判所制度を中心に―

篠原 千晶 戊戌変法期の反纏足運動の考察―天足会と不纏足会の比較を通して―

谷口 佳奈 一九世紀後半における中国茶貿易の盛衰―福建茶の輸出を中心に―

三辻 優香 明初建文帝の削藩政策

南 千景 対ヨーロッパ外交から見るオスマン帝国の一八世紀

森下 真理 秋瑾の女性解放思想と革命運動―日本留学の影響と意義―

横沼 則子 ナーブルス社会の変容―オスマン帝国末期―英国委任統治時代のパレスチナ―

渡邊あかね 明代捐納監生の発生とその背景

西洋史専攻

飯尾 由貴 大英帝国が抱いた「責務」

伊藤早英子 三十年戦争とスウェーデン

伊東 遥 ヴェルサイユ宮殿の威光―ルイ一四世を中心に―

植村 未来 ローマ植民都市ポンペイにおける交易の役割

遠藤 有喜 『グリム童話集』とドイツ市民家族―女性・子ども・家族のあり方―

大岩 美穂 作家たちが求めたチェコスロヴァキア民主化

岡 祐未 ラングドックとカタリ派

岡田 侑奈 三世紀ローマ帝国におけるキリスト教伝播

尾崎 夢 イギリス宗教改革とメアリ一世

上林 沙織 アテナイ人の宗教観―パルテノンとパナテナイア祭を中心として―

北村美代子 ナチス・ドイツの女性政策

高野 愛子 甘い紅茶でつながれた世界―発展と「旧帝国」の崩壊―

重松真由美 ヴァロワ朝の王権表象システム

清水 遥 元首政の始まりと解放奴隷の役割

白井 利枝 変貌する都市ウィーン―ウィーンと啓蒙の出会い―

杉本 彩翔 「アメリカ」という宗教と見えざる宗教

高田真由子 ローマ属州ガリアの交易とルグドゥゥム

田上 美希 王妃マリー・アントワネットと世論

田口麻祐子 中世都市における女性と暴力

竹田 鞠子 クロディウスと民衆政治

田中 雅 中世初期イングランドにおけるデーノ人のキリスト教化

千葉 園子 セレウコス朝の異民族統治とギリシア化

坪田 奈摘 オーストリアハングリー二重帝国の「国民」

西岸 祥子 スペイン王国におけるユダヤ人

野本あずみ ポンパドゥール侯爵夫人―愛妾政治の射程―

藤井 翔子 サヴォナローラの宗教的熱狂

本多 由季 ユリウス・カエサルとドルイド―デイウィキアクスの存在―

前岡 真生 トラヤヌスからハドリアヌスへの皇帝位継承

増田 恭子 『E.B.E.』―WWIからWWII初期までの加英米関係の変遷―

松浦 由香 古代ゲルマン人の生活と信仰

丸山 紗貴 ロシアに生きたタタール―帝政期の民族政策―

三谷真里奈 中世イングランドの大学と都市―オックスフォードとケンブリッジを中心に―

南 早織 公衆衛生の父と疫学の父―一九世紀イギリスにおける伝染病とその対策―

山本佳菜子 一九世紀バリの地方出身者

山本 房代 一九世紀アイルランドの土地戦争におけるマイケル・ダヴィットの役割

渡邊 友恵 中世の「墓地」

二〇一二年 大学院文学研究科

史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

瀧浪教授 日本古代官廷社会の研究
綾村教授 寺院史関係論文の分析
高橋秀直 「幕末維新の政治と社会」を読む
母利教授 笠谷和比古「近世武家社会の政治構造」を読む
母利教授 鶴見良行著「ナマコの眼」を読む
坂口教授 地域の記事を読む
小林教授 日本思想史特論
柴田教授 ※日本文化の歴史
山路講師 古文書の理解と読解
河内講師 周王朝の国制研究
松井教授 元代沿海地域社会の諸問題
檀上教授 明代沿海地域社会の諸問題
富谷講師 ※東アジアの事物起源
木田講師 中国近世史料1―宋と西夏の史料講読―
木田講師 中国近世史料2―遼・金・元史料の講読―

木田講師 前近代アラブ地域のウラマ―
谷口教授 イスラーム文化における口承の尊重
伊藤講師 ※グルジア人と戦争
伊藤講師 ※ロシアとオスマン帝国の第一次世界大戦
伊藤講師
桑山准教授 ローマ帝国支配下のアテネ
桑山准教授 ローマ皇帝崇拜とギリシア文化圏
常松教授 アメリカ現代政治史
常松教授 アメリカ大衆社会論
山田教授 中世初期西欧の交易地―カントヴィックを中心に
山田教授 中世都市の公証業務の研究―クローヌストルらの研究成果を中心に
山田教授 ※近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会
小山講師 (1)―「貴族の共和国」の成立

※近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会
(2)―「貴族の共和国」の変容と解体
小山講師 (※は学部共通)

演習

瀧浪教授 日本史演習Ⅰ・Ⅱ
綾村教授 日本史演習Ⅲ・Ⅳ
母利教授 日本史演習Ⅴ・Ⅵ
柴田教授 日本史演習Ⅶ・Ⅷ
坂口教授 日本史演習Ⅸ・Ⅹ
松井教授 東洋史演習Ⅰ・Ⅱ
檀上教授 東洋史演習Ⅴ・Ⅵ
谷口教授 東洋史演習Ⅶ・Ⅷ
山田教授 西洋史演習Ⅰ・Ⅱ
常松教授 西洋史演習Ⅲ・Ⅳ
常松教授 西洋史演習Ⅴ・Ⅵ
「注」特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した。同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲げた。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目
特殊研究

瀧浪教授 日本史特殊研究Ⅰ
綾村教授 日本史特殊研究Ⅱ
母利教授 日本史特殊研究Ⅲ
坂口教授 日本史特殊研究Ⅳ
柴田教授 日本史特殊研究Ⅴ
松井教授 東洋史特殊研究Ⅰ
檀上教授 東洋史特殊研究Ⅲ
谷口教授 東洋史特殊研究Ⅳ
桑山准教授 西洋史特殊研究Ⅰ
山田教授 西洋史特殊研究Ⅱ
常松教授 西洋史特殊研究Ⅲ
常松教授 研究指導 瀧浪・柴田・坂口・松井・檀上・山田・常松教授 桑山准教授

二〇一二年 修士論文題目

鷲見 敦子 大坂における天明期施行の実態―享保・天保期との比較から―
江崎 綾香 ローマ元首政の確立とアグリッパ
織田めぐみ 東晋末期における皇権と相権―「昏君」孝武帝と「乱相」司馬道子―
川端真紀子 近世琵琶湖における漁業権とその論理
木村せり奈 中世後期北フランス及び南ネーデルラントのワイン商業―エノー地方を中心に―
堺 弓夏 仏教の受容と古代王権
政木明日美 曹魏国都・洛陽
水上 知美 明末の風俗と奢侈肯定論

二〇一二年 大学院行事

研究発表会・その他
四月 二十三・二十四・二十五日 卒業論文発表会
近世フランスの王権・家族・教育―寄宿学校・コレージュを中心に―
M1 丸橋 理沙
六、七世紀の皇室の二大系統
―支援勢力との関係―
M1 林原由美子
古代ギリシアのアッティカ地方における地下神の祭儀―ゼウス・メイリキオスから見るハダス―
M1 福羽 麻実
プトレマイオス朝の王権と神官―マネトーを中心に― M1 星野 宏実
寺内構造から見る中世延暦寺の変様
―山門使節を中心に―
M1 月田 琴美
慈覚大師円仁将来目録三種の考察
―将来物とその影響―

M1 小南 沙月
興正菩薩觀尊の思想と行動―「感身学
正記」と「関東往還記」を中心に―

M1 竹内 公美
『飢餓の四〇年代』の想起―関税論争
におけるイギリス国民意識―

M1 仲村 桐子
コーヒーハウスとイギリス政治

四月 二十五日

大学院歓迎会（竹取の宝宝箱にて）
七月 十三日 春期例会

D1 中村みどり
内親王の研究―平安初期を中心に―
共生への試行―写真史料にみるブラジ
ル日系社会の活動と社会階層性―

十月 十九日 秋期例会

D1 半澤 典子
中国の南北朝時代後期の国際情勢―西
魏・北周の対外政策を中心に―
本学非常勤講師 菅沼 愛語

十一月 七・八・九日 修士論文中間発表会

M2 江崎 綾香
ローマ元首政の確立とアグリッパ
『昏君』孝武帝と『乱臣』司馬道子
―東晋末期に見る南朝への転換―

M2 織田めぐみ
天明期における施行とは
M3 鷺見 敦子

M2 川端真紀子
近世近江国における漁獵論理

M2 水 上 知美
明末の風俗と奢侈肯定論

M2 堀 弓夏
仏教伝来
曹魏期太極殿の成立―背景と意義―

M2 政木明日美

研究室だより

今年度、史学科は一四七名の新入生を迎えました。近年では、一昨年に次いで多い入学者数ということになります。年度初頭における史学科の在籍学生数（休学者を含む）は、上記の一回生に加えて、二回生が一三四名、三回生が一五一名、四回生が一四一名、五回生以上が一八名で、合計五九一名となっています。

大学院については、前期課程に九名、後期課程に二名の新入生が加わりました。その結果、前期課程一回生九名、二回生七名、三回生一名、後期課程一回生と二回生が各二名、三回生と特別研修者が各一名の計二三名が在籍し、それぞれの研究課題に取り組んでいます。

学部の新教育課程は二年目に入り、各コースの入門演習が始まりました。これは今まで演習科目のなかった二年次に新設された科目で、各コースに分かれた二回生を専門的な学習や研究へと導いていくことが目指されています。新しい教育課程によって、本学史学科での学びはこれまで以上に魅力なものになると自負しております。

昨年度は母利教授が国内研究員として校務を離れていましたが、本年度は日本史六名、東洋史三名、西洋史三名の専任教員二名全員が揃いました。また、五年間にわたり史学科の事務を担当してくださった平井麻子さんが昨年度末をもって退職し、端口智美さんがその後任として学部事務課「校舎分室」に着任しました。

本年度末をもって、柴田教授と瀧浪教授が定年をお迎えになり退職されます。本学における教育や校務など、お二人の各方面にわたる長年の御尽力に対して、史学科を代表して御礼申し上げます。

（二月十八日記 史学科主任 谷口淳一）

学会委員

二〇一二年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企

画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長	西洋史三回生	大橋 歩美
副委員長	日本史三回生	河合なつみ
會計	西洋史三回生	遠藤 真紀
書記	日本史三回生	楠本 里帆
広報	東洋史三回生	村重 美帆
企画	東洋史三回生	野本祐里子
	東洋史二回生	岡田 后可
	日本史二回生	岩瀬 加奈
	日本史二回生	粉川 祥子
	日本史二回生	田中 彩子
	日本史二回生	土谷 彩香
	西洋史二回生	平岩 加名
	一回生	奥 千鶴
	一回生	高橋 優
	一回生	津村 有彩
	一回生	濱垣 桃子
	一回生	山下 千晶
	一回生	山田 温子

京都女子大学史学会会則

（二〇〇三年三月二十日制定）

- 第一条 (名称) 本会は、京都女子大学史学会と称する。
- 第二条 (事務局) 本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。
- 第三条 (目的) 本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学会に寄与することを目的とする。
- 第四条 (会員) 本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。

(事業)

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 機関誌『史窓』の発行。
- 2 講演会、研究発表会。
- 3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、専任を妨げない。その構成員は以下のとおりにする。

- 1 編集委員長 一名
- 2 編集員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則

この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

(二〇〇三年三月二十日制定)

第一条 京都女子大学史学会(以下「本会」という)は、機関誌として『史窓』(以下「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に

属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規定の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を経て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

きな臭い世の中になりつつある。日中間の尖閣諸島問題、日韓間の竹島問題、北朝鮮の核兵器開発問題、そしてつい先日発生した北アフリカのアルジェリアにおけるテロ事件、問題の根源にあるものは様々である。東アジアでの主権争い、二十世紀末から頻発してきた宗教・民族紛争など、軍事的強国の経済的活動範囲が広がるにつれ、こうした紛争が激しくなることは過去の歴史が証明している。グローバル経済や新自由主義経済の進展は、自由競争原理や国際競争力強化という大義名分のもとに弱者排除の論理を正当化してきた。近年の政治家や一部の教育関係者の右傾化も、この文脈の中にある。

これら歴史認識が問題となる現代社会の中で、歴史学や歴史研究者が社会に働きかける役割が問われるが、大学教員や学生たちはこの現状にどう向き合うべきであろうか。

歴史の中には、様々な問題解決のヒントが眠っている。本誌『史窓』も日本史・東洋史・西洋史など、さまざまなアプローチから先人の思索や問題解決の営みを紹介してきたが、本号で七十号を迎えた。これまで収録されてきた論考の総目次を掲載しているので、本会会員諸氏が注目してきた問題関心を通観していただきたい。

本号では、六世紀東部ユーラシアの外交関係を論じた菅沼氏、近世日本の軍制と官僚制の相関関係を論じた拙著の論文二本、中世西欧の「市場」研究状況の成果と課題を整理した山田氏の研究ノート一本、谷口氏が連載を続けている中世イスラムの官僚制に

関する史料紹介一本を収録した。日・東・西と各専攻からバランスよく掲載ができたが、非常勤を含む教員四人の論稿のみとなった。

前号の編集後記でも指摘されたが、ここ数年の執筆者の偏りはなかなか解消できない。際限ない日常業務の増加傾向、学外からの依頼原稿の増大や大学院紀要など、執筆の場が増えていることも一因であるが、本会発足の原点に立ち戻り、本誌のあり方について議論が必要な時期にきているのではないだろうか。

なお、本年度でご退職される柴田教授、瀧浪教授の業績録を掲載している。両氏とも膨大な業績を蓄積されてきたが、ご退職後もお元気で各方面での活躍を期待したい。

(母利美和)

執筆者紹介

菅沼 愛語 本学非常勤講師
母利 美和 本学教授
山田 雅彦 本学教授
谷口 淳一 本学教授

編集委員

母利 美和 (委員長)
谷口 淳一
桑山 由文
早島 大祐

史窓 第70号

二〇一三年二月四日 印刷
二〇一三年二月八日 発行

編集 「史窓」編集委員会

発行 京都女子大学史学会

京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎(〇七五)五三一—九一〇〇
代表者 谷口 淳一

印刷 株式会社 朋舎

京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎(〇七五)三六一—九一二一

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属
します。

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 70

February 2013

Contents

Articles

SUGANUMA Aigo, The Foreign Policy of Western Wei 西魏 and Northern Zhou 北周, and Reunification of China (1)

MORI Yoshikazu, Bureaucracy and the Military Administration of Hikone-Ii Lordship 彦根井伊家 in the Early Modern Age (23)

Research Note

YAMADA Masahiko, Some Problems on the 'Market' of Western Europe in the High-and-Late Middle Ages: From the Historical Researches in Europe and USA after 1990s (1)

Historical Document

TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl Allāh al-'Umari's *al-Ta'rif bi-al-muṣṭalah al-ṣarīf* (4) (31)

Biographical Notes and Lists of Works

SHIBATA Jun (61)

TAKINAMI Sadako (67)

Index of *Shisō*, 1-70, 1952-2012 (79)

Miscellaneous (97)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931